

令和2年度第1回下田地区協議会 会議録（概要）

●会議を開催した日時及び場所

日 時 令和2年6月4日（木） 午後1時55分～午後3時35分
場 所 下田公民館 多目的ホール

●出席委員（◎会長、○副会長）

渡辺 定一 小浦方正美 坂井 利彦 ○大竹 壽人
◎清水 昭 五十嵐愛子 坂井 英樹 西川 亙
近藤喜美子 近藤 昌志 名古屋利夫 山屋 祐介（12人）
（欠席委員）
刈屋 勇 西潟 芳博（2人）

●出席者

総務部長 笹川 浩志 市民部長 藤井 勲 政策推進課長 米持 克広
地域経営課長 山田 隆雄 下田サービスセンター長 長谷川 考基
地域経営課）課長補佐 新田 泰章
政策推進課 政策推進係長 前山 直人
下田サービスセンター 総務グループ長 目黒 徳義 主任 長谷川 祐二

●傍聴者

なし

●報道機関

なし

●内 容

- 1 開 会（午後1時55分開会）
- 2 出席者紹介
- 3 議 事
 - (1) 副会長の選出について
副会長に大竹壽人委員を選出
 - (2) 行政評価に基づく令和元年度事後評価について
（政策推進課長 説明）

資料No. 1-3により行政評価に基づく令和元年度事後評価について説明

～質疑～

(山屋委員)

小項目17の主要な成果指標である「三条ひめさゆりネット」とは具体的にどういった制度で、どのような形で登録するのか。また、実績値が目標値を下回っているが、市民にはどのように登録方法等が周知されているのか。また、今後目標達成に向けて市はどのように取り組んでいくのか。

(政策推進課長)

「三条ひめさゆりネット」は市民が住み慣れた地域でいつまでも住み続けることができるよう、医療機関、介護事業所、地域社会等がサービス利用者の情報を共有し連携して適切なケアを実施していく仕組みである。基本的には、かかりつけ医や介護事業所がこの仕組みを利用者へ紹介して登録につなげている。かかりつけ医がこの仕組みに加入していれば、患者に登録の働きかけができるため、今後はさらに多くの医療機関、介護事業所からこの仕組みに参加していただくとともに、今年度から消防署が新たな機関として加わったように、この仕組みの価値を高めていき登録者を増やしていく。

(小浦方委員)

私からは3点確認したい。1点目は小項目7の主要な成果指標である「三条ファンクラブ」について、主にどの地域からの登録者が多いか。2点目は小項目25に関連して、三条市全体でどれくらい空き家があるか。3点目は今年のように新型コロナのような感染症があった場合、災害時にどのような避難体制をとるのか。

(市民部長)

私からは2点目についてお答えする。三条市で把握している空き家は今年2月末現在で312軒あり、管理不全となっている空き家は200軒で、うち112軒は所有者と連絡が取れており、解体ないし処分をしてもらうこととなっている。残りの90軒については、引き続き所有者に対応を働きかけ続けていく。

(地域経営課長)

私からは1点目についてお答えする。「三条ファンクラブ」の主な登録者は首都圏に在住している三条市出身者である。現状、移住の意思まではないが、いずれ三条に帰ってきたいという方に、さまざまな情報を提供し、ネットワークづくりを図っている。

(政策推進課長)

私からは3点目についてお答えする。避難所の新型コロナ対策としては3密の回避が非常に重要なことから、避難者間の物理的な距離が取れる体制づくりが必要となる。そのために、これまで避難所として指定してこなかった学校の普通教室等を新たに開放し、避難所を拡充することで、物理的な面積を拡大する。また、水害では河川の直下などを除き、垂直避難が効

果的なことからこれをこれまで以上に徹底し、避難者数自体を減らす。この2つの方法で避難所での3密回避を図る。

(大竹副会長)

小項目2のものづくり産業の価格決定力確保と小項目3の産業として成り立つ農業の確立はともにC評価となっている。この2つは若年層の転入促進において、特に重要な役割を担うと思うが、市は今後どのような取組をしていくのか。

(政策推進課長)

いずれの分野でも、自分で価格を決めることができる魅力的な商品を作ることが重要である。ものづくり産業では、ものの価値を見える化し、その価値に共感していただける方に商品をつなげていくコト・ミチ人材の育成を着実に進めていくため、コト・ミチ人材の候補者の方の実践の場を増やしていきたい。また、農業については先進農業者の下で長期的に研修を受けた方に対して、研修後もきめ細かなサポートをして一本立ちさせていき、その支援の過程を今後の農業者支援のモデルとして広く発信していく。

(3) 辺地総合整備計画について

(地域経営課長 説明)

資料No. 2により辺地総合整備計画について説明

～質疑なし～

(4) その他

(坂井(利)委員)

今年度夏休みが短縮され登校日が増えると思うが、現状マイクロバスで送迎されていない地域の生徒や児童は暑い中歩いて通学するため、熱中症にならないか心配である。その辺り配慮をしてもらえるのか。

(政策推進課長)

所管の教育委員会へ伝えて、後日委員へお答えする。

(近藤(昌)委員)

買い物難民対策として、今から6年ほど前に下田地区の辺地地域を中心に移動販売している事業者へガソリン代等の補助を開始したと記憶しているが、その後の状況をお伺いしたい。また、八十里越の開通まで残り3、4年となり開通されれば、今までに見られなかった入込み客が予想される。それに間に合うように福島県側から三条市側へ入ってきたときの看板の設置や下田地区がただの通過点とならないように観光施設の整備が必要だと思う。国の地方創生推進交付金等を使って、積極的な整備をお願いしたい。

(地域経営課長)

買い物難民対策については、現在移動販売の4事業者へ月8回、通年で燃料費を補助し、地域への生活物資の販売をお願いしている。また、補助対象事業者ではないが、スーパーのマル

イが運営している移動販売車のとくし丸号が、下田地区で事前に発注を受けて移動販売を実施している。

(政策推進課長)

八十里越については、従来只見町と広域観光の在り方について検討してきたが、今年度は新たに南会津町を加えて三市町で広域観光の在り方についての検討会を発足させた。その中で、委員から御指摘いただいた点についても議論されることになる。この検討会の費用にも地方創生推進交付金が充てられていて、今後の検討で具体的なものを作るときにもこの交付金を活用していく。

(清水会長)

ただ今八十里越について説明があったので、下田商工会長の渡辺委員に八十里越の現状についてお聞かせ願いたい。

(渡辺委員)

八十里越が開通すると荻堀地域では大変な混雑が予想されるが、荻堀地域の中には未着手の歩道があるため、地域住民が困るのではないかと心配している。また、国道 289 号は笠堀、大谷地集落の舗装がひどく傷んでおり、こちらも早急に修繕しなければならない。また、開通後の除雪体制も準備していかなければならない。

(小浦方委員)

道心坂線については市道から県道に昇格したという認識で良かったか。また道心坂線の曲がりくねった道路は改善されるのか。

(総務部長)

道心坂は現在市道であり、道路をまっすぐにするとすると、莫大な費用がかかるので、市で実施するのは極めて難しい。本市道を県道にすべく、県道三条見附線と市道道心坂線を交換するよう県と話を進めている。なお、道路の舗装修繕については今年度区間を区切って実施していく。

4 閉 会 (午後 3 時 35 分閉会)